

第2編

基本構想



第1章 基本理念と将来像

1 基本理念

天然の美を誇る恩納村民であることに生きがいと責任を持ち、平和で明るく豊かな美しい村を築くために、みんなが力を合わせて実践する道しるべとして、村民憲章を定めています。

【村民憲章】

1. 自然を愛し、自ら美しい村をつくります。
2. 人間を尊び、愛情豊かな村をつくります。
3. きまりを守り、明るい村をつくります。
4. 伸びゆく力を育て、活力ある村をつくります。
5. 心と身体をきたえ、健康な村をつくります。

村民憲章は、むらづくりの普遍的な理念を示したものであり、総合計画は村民憲章をより具体的に実行するための政策と施策を示すものです。

本村の今後 10 年間の総合的なむらづくりを進めるにあたっては、村民憲章を基本としながら、本村を取り巻く社会情勢の変化や村民ニーズ等に的確に対応し、関わる人々の総働による取り組みが必要です。さらに、これまでに築き上げてきた取り組みを土台に置き、効果を検証しつつ継続的に取り組んでいくことは極めて大切です。このことを踏まえ、恩納村第 6 次総合計画では、次の 5 つを計画の基本理念とします。

また、これらの基本理念は「サンゴの村宣言」及び「サンゴのむらづくりに向けた行動計画」の基本理念、「恩納村 SDGs 推進戦略」の考え方を包括するものとして位置づけます。

（1）自然を愛し、人と自然が共生する美しい村

本村の最大の特徴は、サンゴ礁海域をはじめ、変化に富んだ地形を背景に多様な生き物が生育する恵まれた自然資源にあります。この自然を基礎として

人々の営みや歴史・文化が育まれてきました。この自然の大切さを認識し、自然にやさしい持続可能なむらづくりを進めるため、「サンゴの村宣言」を行いました。この自然との共生理念はこれからも変わることなく、未来に引き継ぐことは私たちの責務です。この本村を形づくっている根源となっている自然を愛し、その恩恵を享受し、自然と歴史文化に根ざした人と自然とが共生する美しい村をつくります。

（2）人間を尊び、互いを支え合う心豊かで共生の村

一人ひとりが自分らしく生き生きと暮らすためには、年齢や性別、障がいの有無、国籍などに関わらず、お互いの個性や価値観を理解し、尊重し合うことが何よりも大切です。

本村では、一人ひとりの人間性を尊重するとともに、生涯にわたって学び、働き、活動できるよう環境づくりを進め、一人ひとりが持つ経験や能力を最大限発揮でき、生き生きと暮らせる心豊かな村をつくります。

本村における地域の営みは、先人たちが互いに支え合い協働して築き、今日の豊かな地域社会をつくり出しています。昨今の社会構造や産業構造の変化、少子高齢化の進展、ライフスタイルの変化などに伴い、地域コミュニティが希薄化しつつあります。

地域の豊かな自然や歴史・文化、人々の絆を継承するとともに、地域の様々な課題やニーズに対応し、安全・安心で、持続可能な地域社会を築くために、住民や行政は基より、関係する様々な主体が参画・協働しやすい仕組みづくりを進め、共生の村をつくりま

（３）子どもたちの伸びゆく力を育て、活力ある村

村の将来を担い継承していくのは人です。この担い手づくりは、一生涯にわたって継続される必要があります。本村の人口は増加していますが、構造的には少子高齢化傾向にあります。

村民一人ひとりが生き生きと暮らし、活躍し、豊かで活力ある地域と村の担い手を育むために、子どもを産み・育てやすい環境づくりと、生きる力を育む教育の充実を進め、活力ある村をつくります。

（４）心も体も健康で、安心して暮らせる村

生き生きとした暮らしを送るためには、一人ひとりの心と体が健康であることが何よりも大切です。

住み慣れた地域で、健康で安心して暮らすためには、子どもから高齢者まで支えが必要となき、必要に応じた適切な支援が必要です。

安心して子どもを産み育てることができる環境の整備、生涯にわたり健康な健康長寿づくりの支援、高齢者や障がい者などへの包括的な支援の取り組みを進め、また地域の身近な人たちが互いに支え合う地域づくりを推進し、住み慣れた地域で、心も体も健康で、安心して暮らせる村をつくります。



沖縄科学技術大学院大学（OIST）

（５）魅力あふれる活力のある元気な村

本村は、自然豊かで風光明媚な地勢を有していることから、国内でも有数の観光リゾート地として発展するとともに、これに関連する観光関連産業も発展してきました。本村の基幹産業をなしてきた農業や漁業も新たな作物栽培や養殖業など、付加価値を高める創意工夫がなされ、新たな発展を遂げています。

本村には、宇宙航空研究開発機構（JAXA）沖縄宇宙通信所、情報通信研究機構（NICT）沖縄電磁波技術センターや沖縄科学技術大学院大学（OIST）といった高次学術機関が立地し、村民との交流や学習機会などが盛んになりつつあります。

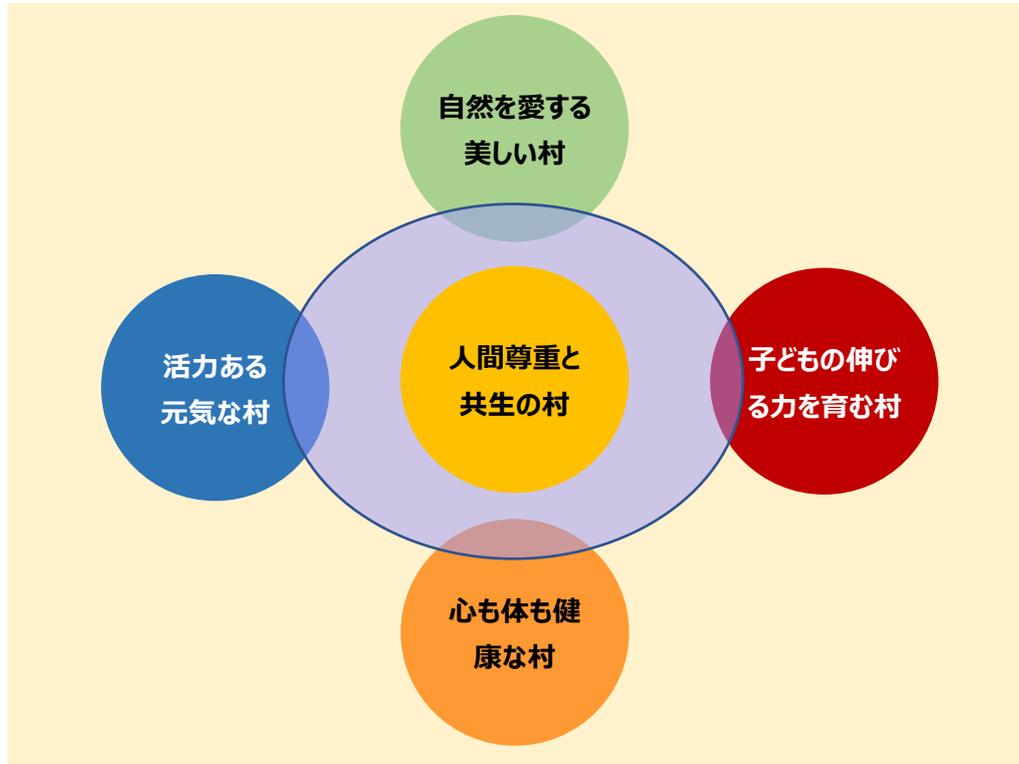
恵まれた産業資源や高次学術機関の集積を活かし、かつ自然との共生を図りながら、若者の定着とともに村民が豊かに暮らせるよう、魅力あふれる活力ある元気な村をつくります。



恩納村民憲章（昭和63年4月1日制定）

基本理念と「サンゴの村宣言」、「恩納村 SDGs 推進戦略」との関係

第6次総合計画 基本理念



	<p>SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS</p>
--	--------------------------------------

2 将来像

基本構想は、これからの10年間の恩納村の将来像と、その実現のための方向性を示すものです。将来像は、前述した基本理念を踏まえ、村民と行政が共にめざすべき村の姿としてわかりやすく表現したものです。

本村では、恩納村第5次総合計画において、村の将来像を「青と緑が織りなす活気あふれる恩納村」－我した恩納村 青緑清らさ 肝心据えて 文化（花）ゆ咲かさ－として掲げ、村の豊かな自然環境、

歴史・文化、村民の絆が将来へと引き継がれていくむらづくりを推進してきました。

本計画においても、これまでの考え方を承継するとともに、サンゴをはじめとする豊かな自然環境を基調に、村民が健康で文化的な生活の営み、活力ある地域の創出など、人と地域が輝いているむらづくりを目指し、そして未来につなげていくために、本村の新たな将来像を次のとおりとします。

将来像

めぐみ

恩の青 豊かな緑 輝く人々 未来へつなごう恩納村

「恩の青 豊かな緑」は、サンゴ礁の海の青さ、山々の緑に象徴される恩納村の豊かな自然環境が大切に守られ、将来へと引き継がれていくことを表します。人々の豊かな営みは、この豊かな自然を基調として成り立っています。

「輝く人々」には、歴史・文化に根ざした健康で文化的な生活を営み、観光をはじめとする産業の活力、沖縄科学技術大学院大学（OIST）等を活かした国際交流の発展に向けて、人と村が輝きをもって創られていく様を表します。

「未来へつなごう」には、豊かな自然や輝く人々の姿を、そしてSDGs 未来都市としての理想の姿を引き継ぎ・未来につなげていこうという意味合いを持っています。



サンゴの養殖



二十歳を祝う集い（2023年）



第2章 人口ビジョン

1 人口ビジョンの位置付け

(1) 人口ビジョンの位置付け

「恩納村人口ビジョン（平成 28 年（2016）3 月）」は、本村における人口の現状を分析するとともに、人口に関する住民の認識を共有しながら、今後めざすべき将来の方向と、人口の将来展望を示しています。そこでは、人口減少・超高齢社会の到来により、様々な分野において多くの負の影響を及ぼすことが懸念されています。これを受け、「厳しく困難な未来」を変えるために恩納村まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し具体的な施策に取り組んできました。

恩納村第 6 次総合計画では、総合戦略と連動した計画として策定することとしており、まち・ひと・しごと創生の更なる充実・強化に向けた施策を展開していくため、また、その後の人口動態にも変化が生じていることから、本計画内において人口ビジョンの一部見直し（改訂）を行います。

(2) 対象期間

国の人口ビジョンの対象期間は、長期的な視野に立った展望を行うため、令和 42 年（2060）としています。なお、国は、地方人口ビジョンの対象期間については、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）の推計期間である令和 27 年（2045）を目途とするなど、地域の実情に応じて設定しても差し支えないとしています。

このことを踏まえ、本村の対象期間は、社人研の推計期間と整合させ、令和 27 年（2045）とします。

また、国の方針転換や、今後の本村における住宅開発などの影響、社会経済動向の変化など、人口に大きな影響を与える要因が生じた場合などにおいては、適宜見直しを行うものとします。

2 総人口の推移と人口動態の動向

(1) 人口動態と世帯数の推移

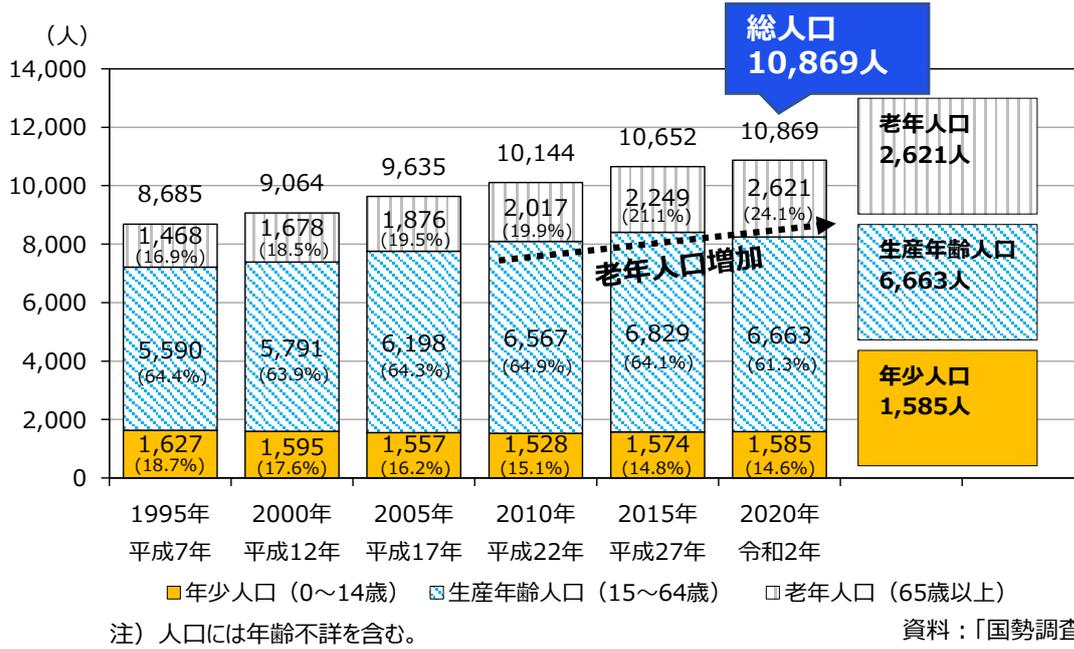
本村の総人口は、増加傾向にあります。人口構成を、年少人口（0 歳～14 歳）、生産年齢人口（15 歳～64 歳）、老年人口（65 歳以上）の 3 区分で見ると、年少人口は横ばい状態にあり、生産年齢人口は平成 27 年（2015）までは増加していましたが、令和 2 年（2020）は減少しています。

老年人口については、増加傾向となっています。

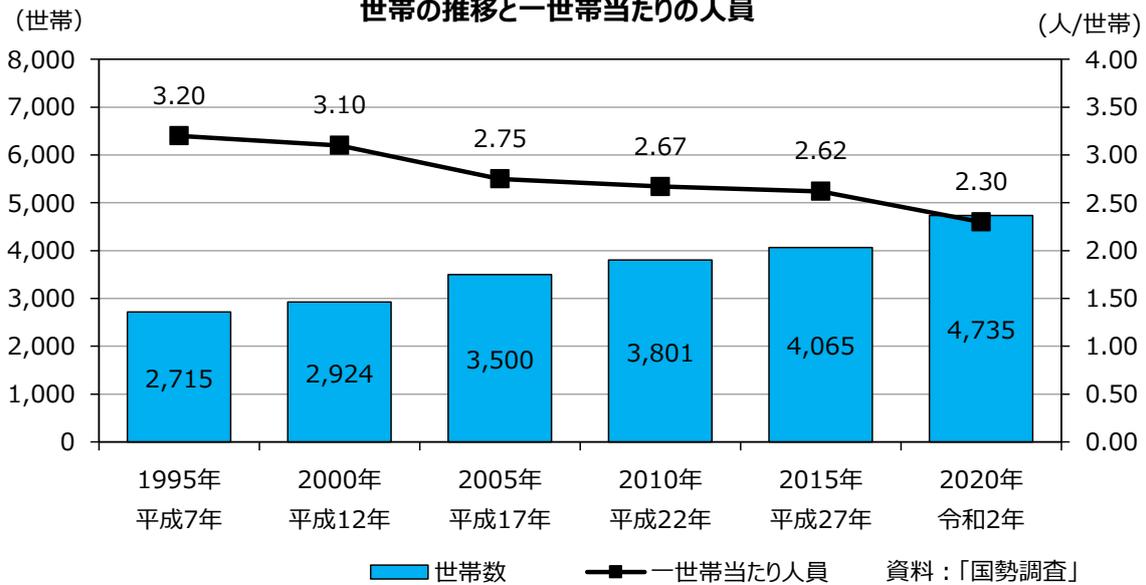
年少人口と老年人口の割合を近隣市町村と比較すると、少子高齢化の進行がみられます。

世帯数などの推移については、世帯数は増加していますが、1 世帯当たり人員は減少していることから、今後は家庭や地域における高齢者支援のニーズが増加することが考えられます。

総人口及び年齢区分別人口の推移（各年 10月1日現在）



世帯の推移と一世帯当たりの人員



年少人口割合・老年人口割合の比率

	年少人口割合 (%)					老年人口割合 (%)				
	2000年 平成12年	2005年 平成17年	2010年 平成22年	2015年 平成27年	2020年 令和2年	2000年 平成12年	2005年 平成17年	2010年 平成22年	2015年 平成27年	2020年 令和2年
恩納村	17.6%	16.2%	15.1%	14.8%	14.6%	18.5%	19.5%	19.9%	21.1%	24.1%
宜野湾市	20.2%	19.3%	18.2%	17.9%	16.7%	10.3%	12.9%	14.8%	16.9%	19.8%
沖縄市	21.5%	20.5%	19.2%	18.4%	16.7%	11.9%	14.3%	15.5%	18.0%	21.1%
うるま市	-	19.4%	18.1%	17.5%	16.9%	-	16.2%	17.5%	20.0%	22.5%
宜野座村	20.6%	18.5%	18.9%	20.4%	19.8%	18.9%	20.3%	21.1%	23.1%	25.6%
金武町	17.6%	16.7%	17.0%	17.5%	17.3%	18.8%	22.0%	23.1%	25.2%	27.8%
読谷村	21.6%	20.6%	18.9%	18.4%	17.2%	12.5%	15.0%	16.7%	18.5%	22.0%
嘉手納町	19.3%	18.5%	17.4%	17.2%	17.1%	17.2%	19.7%	21.0%	22.4%	24.4%
北谷町	21.3%	20.1%	18.6%	17.9%	17.0%	11.4%	14.1%	16.1%	18.5%	21.1%
北中城村	19.7%	18.7%	17.5%	16.8%	16.6%	15.6%	18.5%	20.2%	22.1%	24.1%
中城村	18.5%	17.1%	16.5%	17.4%	18.2%	15.1%	16.6%	16.6%	17.8%	19.1%

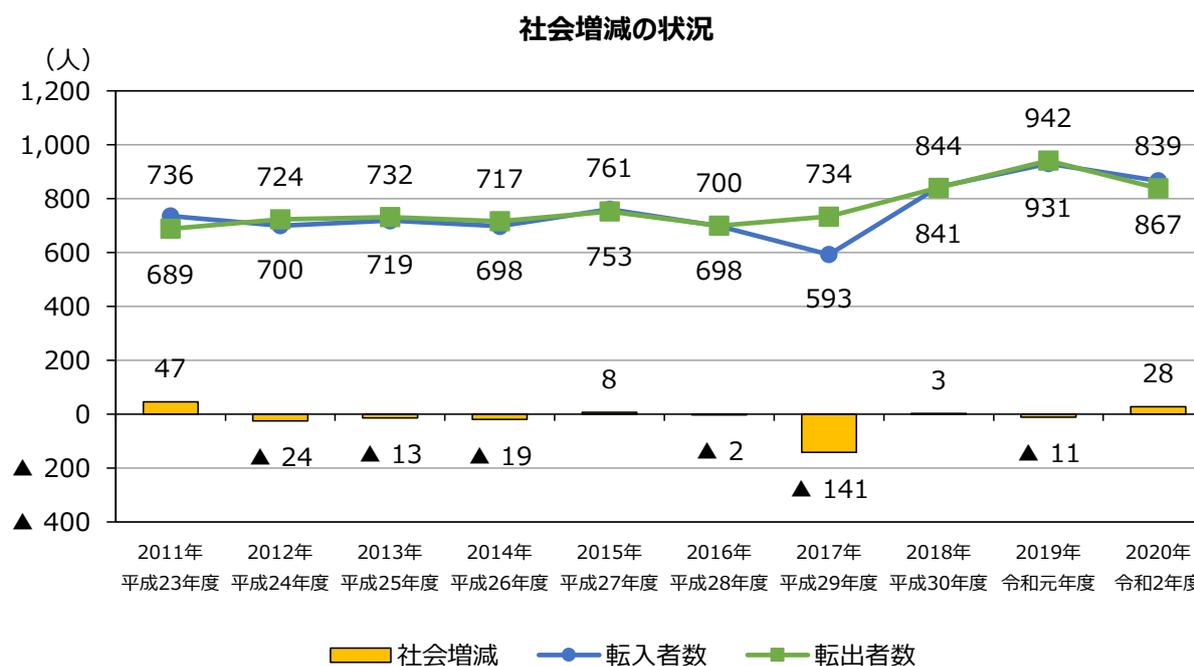
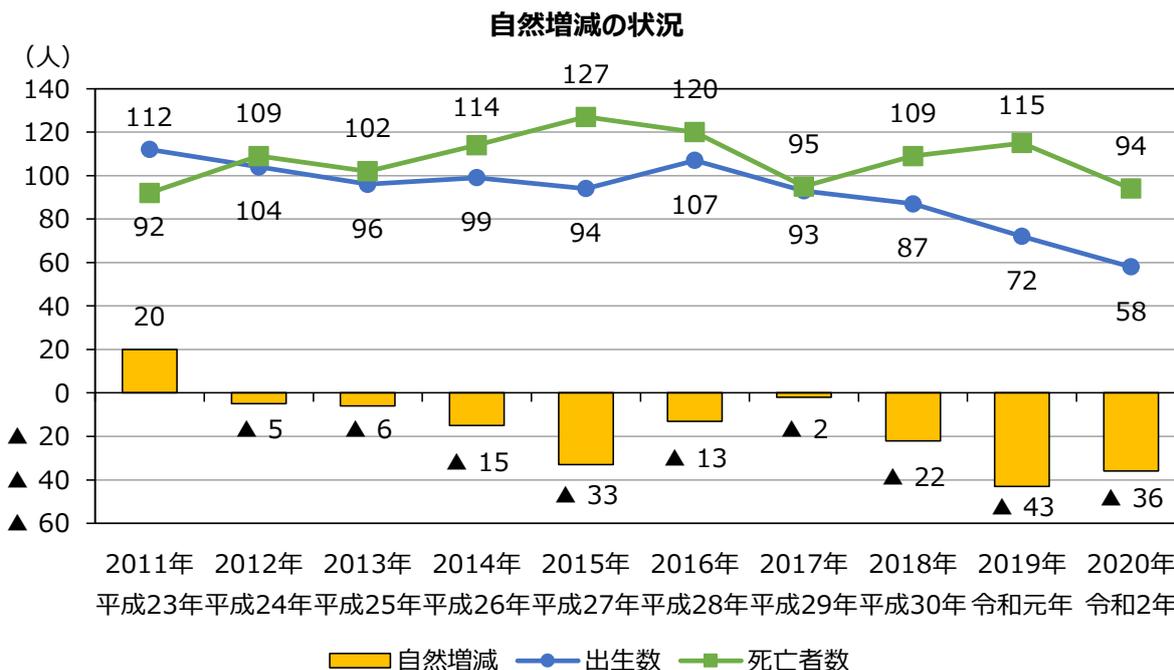
資料：「国勢調査」

(2) 人口動態の動向

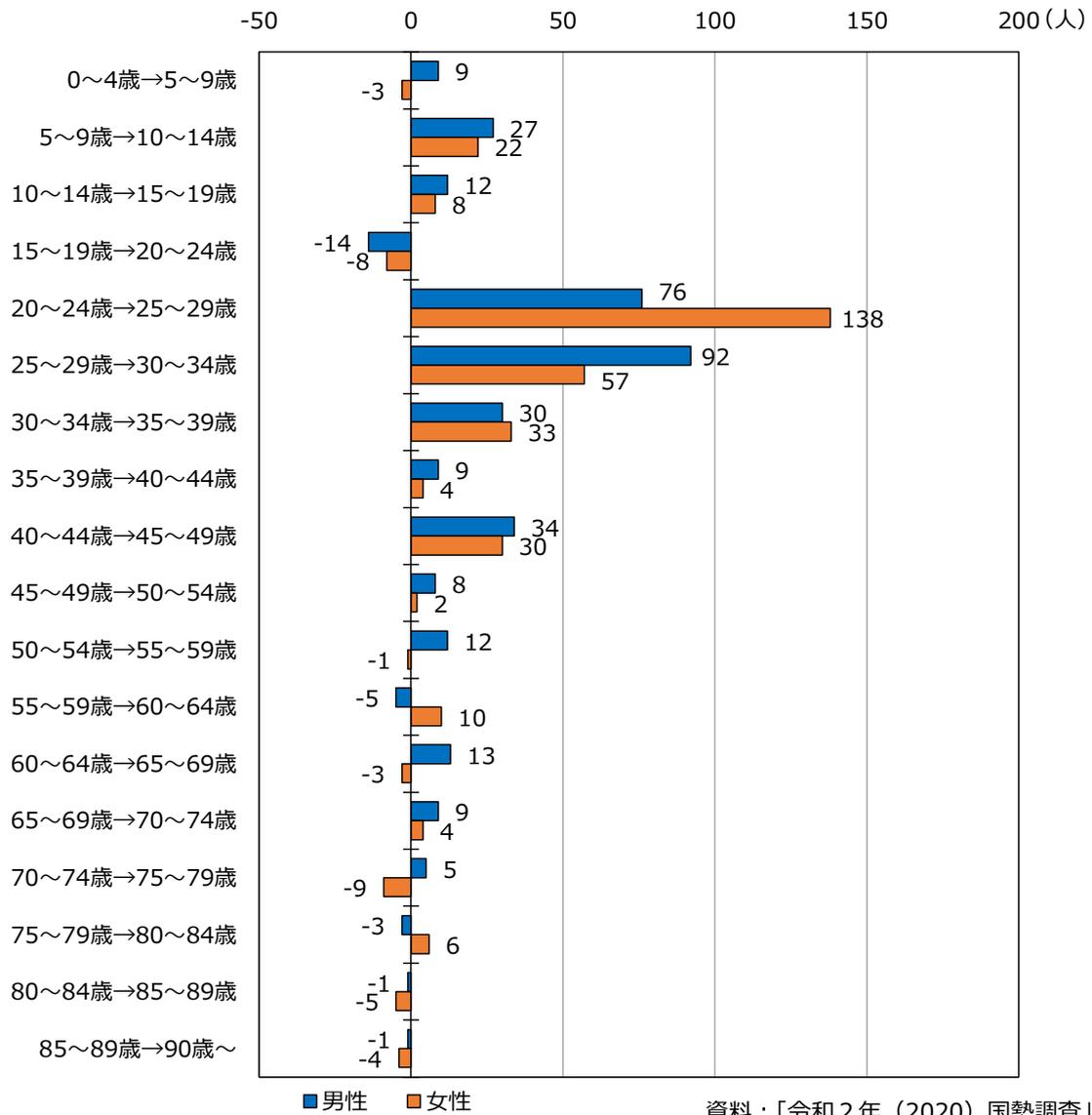
自然動態（出生・死亡による増減）は、平成24年度（2012）から継続して死亡数が出生数を上回る自然減となっています。社会動態（転出・転入による増減）は、令和元年度（2019）までは増減を繰り返し、令和2年度（2020）から転入者数が転出者数を上回る社会増加となっています。

2015年から2020年における年齢別の社会増減の推移は、20歳代前半の男性、女性ともに減少となっていますが、ほぼ全ての年齢層で社会増加となっています。

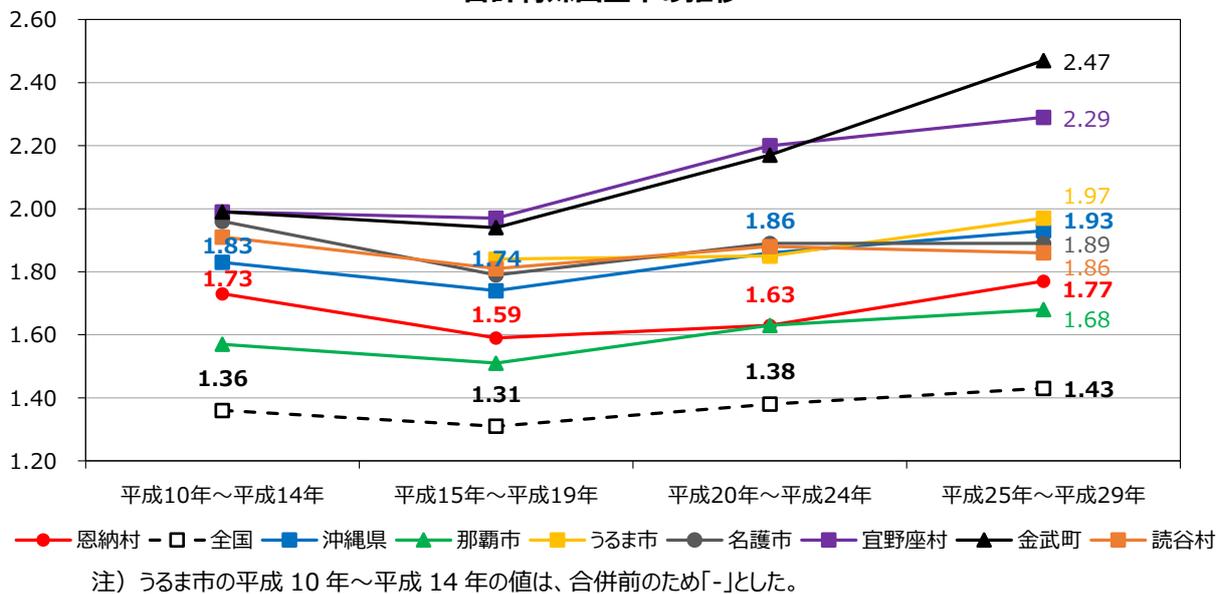
また、合計特殊出生率（15歳～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの）は1.77で、人口を維持する値とされる2.07を下回っています。



2015年から2020年における年齢別の社会増減の推移



合計特殊出生率の推移



(3) 就業者の状況

① 就業者等の状況

本村の産業別就業者数の総数は、平成 27 年 (2015) までは増加傾向でしたが、令和 2 年 (2020) には平成 27 年 (2015) の 5,242 人に比べ 10.7%減の 4,679 人となっています。これは、令和 2 年 (2020) 1 月に発症した新型コロナウイルス感染症による影響が大きいと考えられ、特に、観光関連産業への影響が大きかったことに起因していると考えられます。

産業別の推移をみると、第 1 次産業と第 2 次産業は減少傾向にあり、第 3 次産業は長期的な視点では増加傾向を示しています。また、産業別の占める割合は、令和 2 年 (2020) 現在、第 3 次産業が 78.0%、第 2 次産業が 9.9%、第 1 次産業が 11.3%となっています。

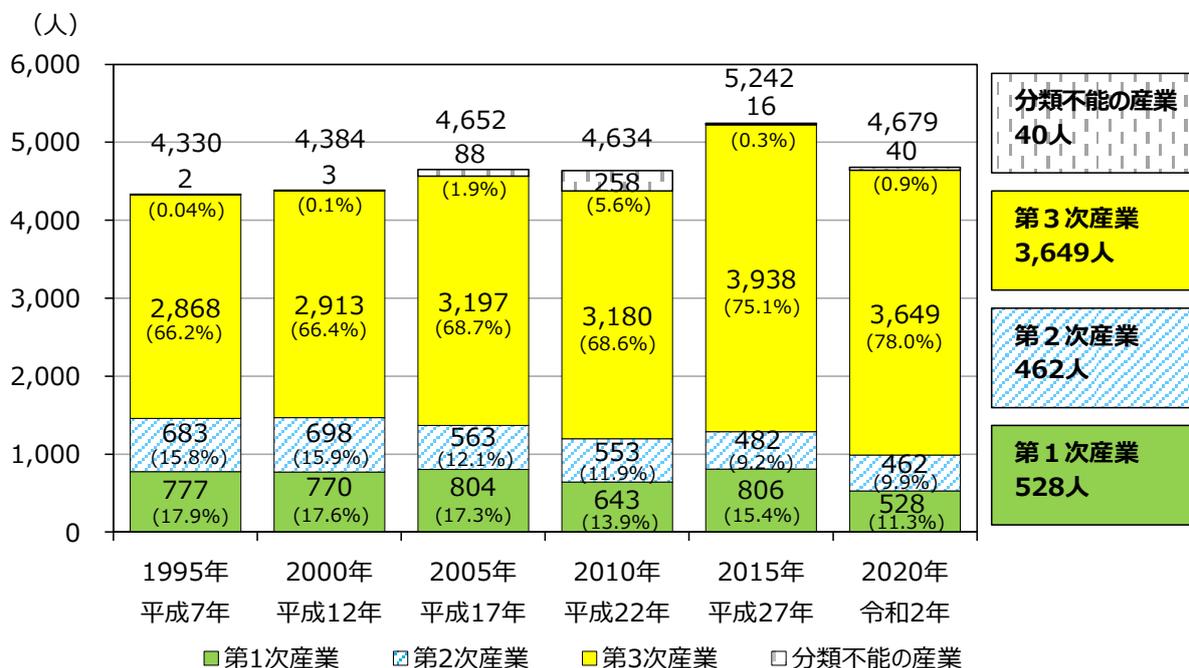
② 本村で働く就業者の状況

令和 2 年 (2020) 国勢調査による本村で働く産業別年代別就業者数をみると、農業・林業、漁業、製造業、運輸業・郵便業は 50 歳代以上が半数又はそれ以上を占めており、高齢化がうかがえます。他の業種では 40 歳代までの割合が多くなっています。

③ 村内総生産額

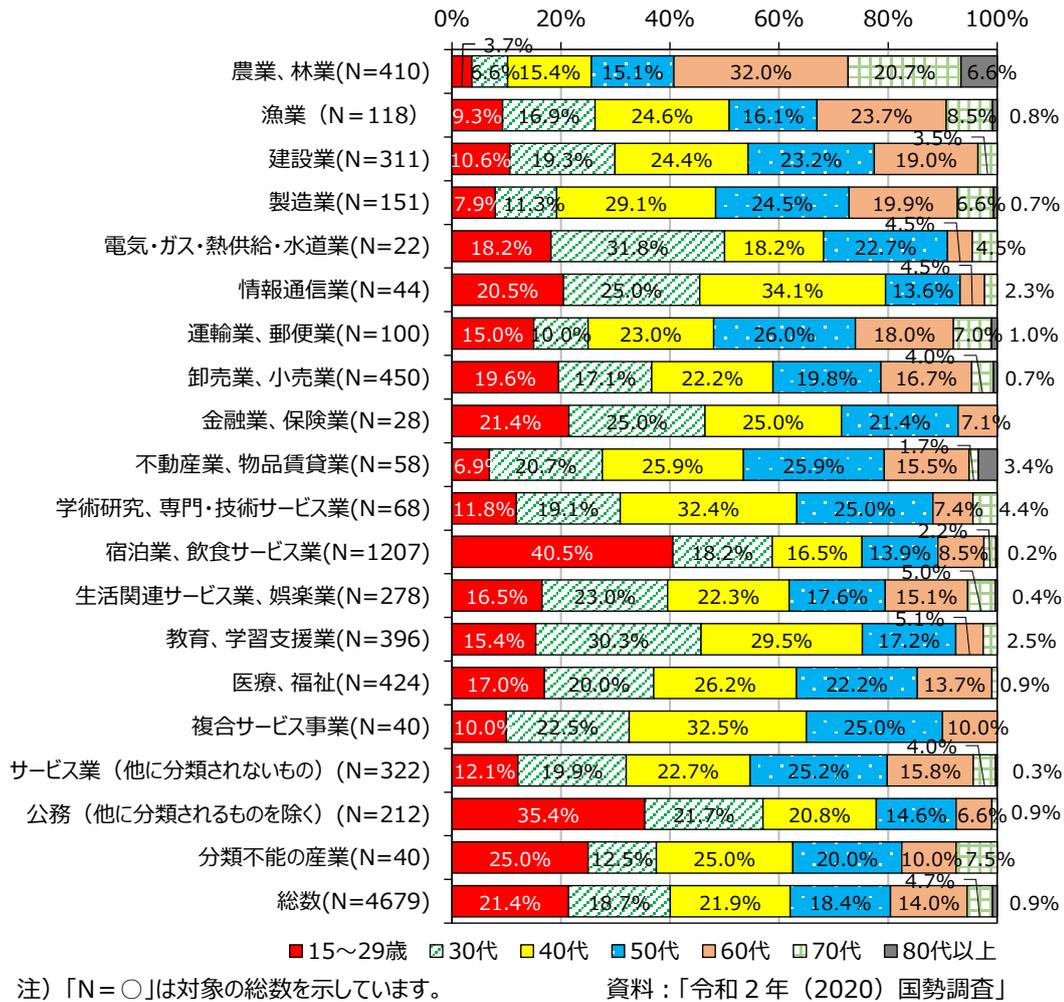
本村の村内総生産額は、平成 30 年度 (2018) で 624 億 5 千万円となっており、年々増加傾向を示しています。産業別では、第 2 次産業の建設業、第 3 次産業の宿泊・飲食サービス業が圧倒的な地位を占めています。

産業別就業者数の推移

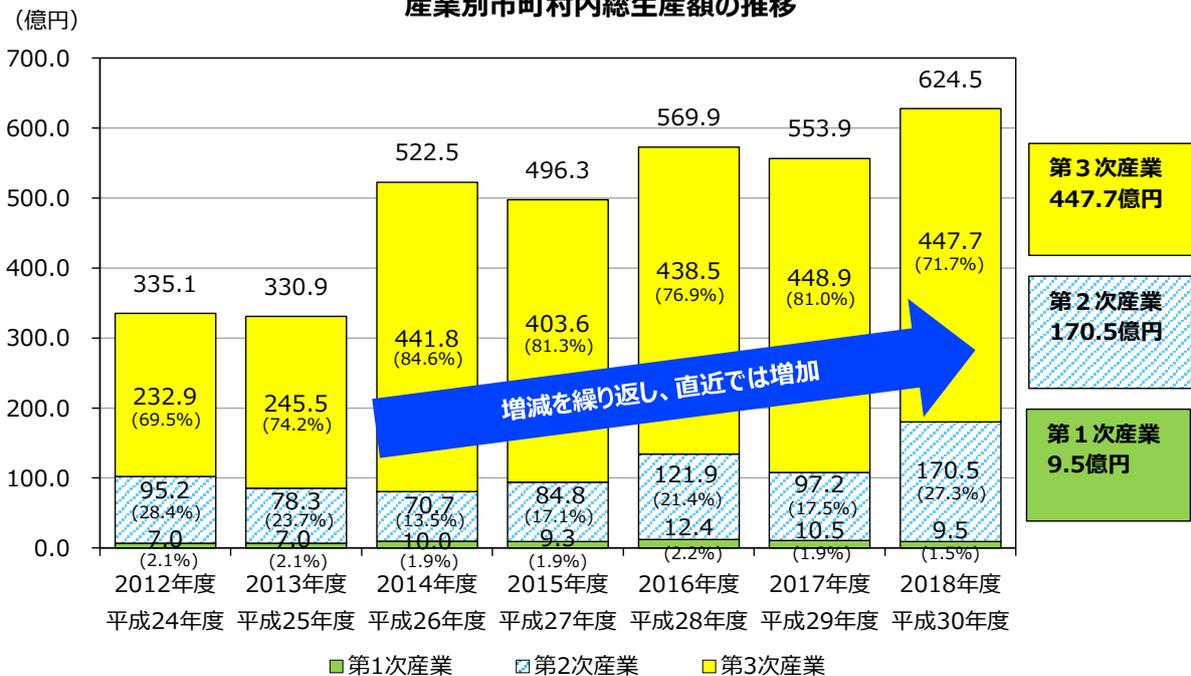


資料：「国勢調査」

本村で働く産業別年代別就業者数



産業別市町村内総生産額の推移



注) 1.第1次産業は農業、林業、水産業の値の合計である。 資料: 「沖縄統計年鑑」
 2.第2次産業は鉱業、製造業、建設業の値の合計である。
 3.第3次産業は電気・ガス・水道・廃棄物処理業、卸売・小売業、運輸・郵便業、宿泊・飲食サービス業、情報通信業、金融・保険業、不動産業、専門・科学技術、業務支援サービス業、公務、教育、保健衛生・社会事業、その他のサービスの値の合計である。

（４）村民の意向

人口ビジョン及び総合計画の策定に向けて村民の意向を把握し、計画に反映するためにアンケート調査を行いました。

1 調査の概要

（１）調査の目的

●村民意識調査

本村では、むらづくりの指針である「恩納村第5次総合計画後期基本計画」が令和4年度をもって終了することから、新たなむらづくりの指針となる「恩納村第6次総合計画」の策定に向けて、村民の意見を把握することを目的とし、対象18歳以上の村民約2,000名を無作為に抽出し、アンケートを実施しました。

●進学・就職に関するアンケート調査

「恩納村まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「総合戦略」という。）を改訂するにあたり、進学や就職に関する考えや、意見等を把握することを目的に、恩納村内在住の中学から高校生の年齢の方を対象に実施しました。

●転出者アンケート調査

総合戦略を改訂するにあたり、村民の方の転出に関する実情を把握することを目的に、恩納村から他地域へ転出した方を対象に実施しました。

（２）調査対象と回収状況

●村民意識調査

【村内在住の18歳以上の方】

2,000人

【回収数】

580票（回収率29.0%）

●進学・就職に関するアンケート調査

【村内在住の13歳から18歳未満の中・高生】

548人

【回収数】

356票（回収率65.0%）

●転出者アンケート調査

【村から他地域へ転出した方】

600人

【回収数】

66票（11.0%）

（３）調査の期間

●令和2年11月20日～令和2年12月7日



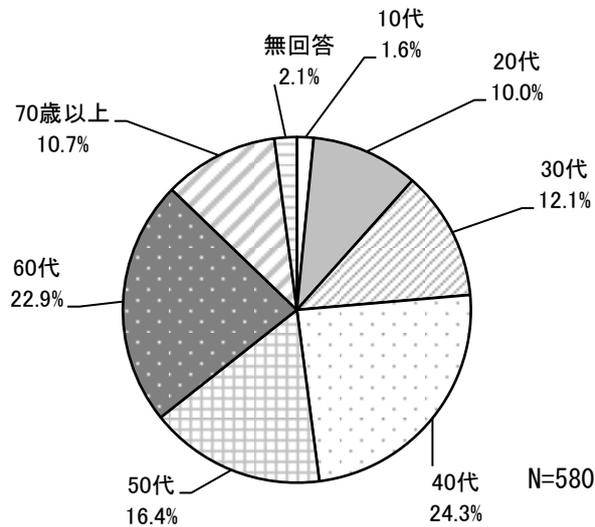
各区行政懇談会の様子（2021年）

2 アンケート調査の結果

(1) 回答者について

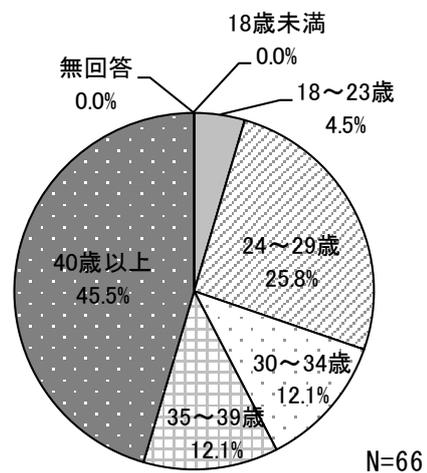
●一般：年齢

回答者の年齢別は「40代」が24.3%で最も多く、次いで「60代」の22.9%、「50代」の16.4%となっています。



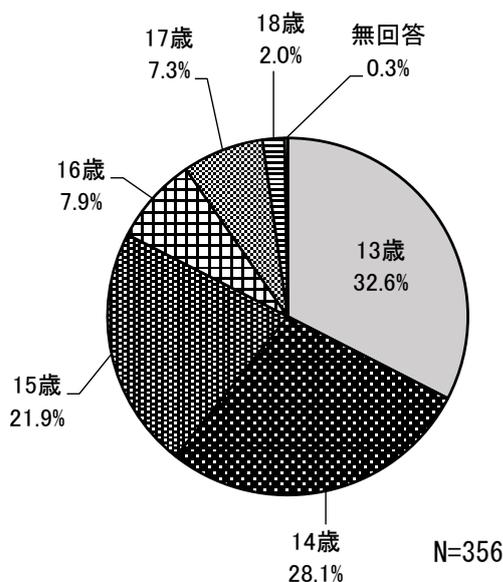
●転出者：年齢

「40歳以上」が45.5%で最も多く、次いで「24～29歳」が25.8%、「30～34歳」、「35～39歳」がともに12.1%となっています。



●中高生：年齢 ※令和2年11月1日現在

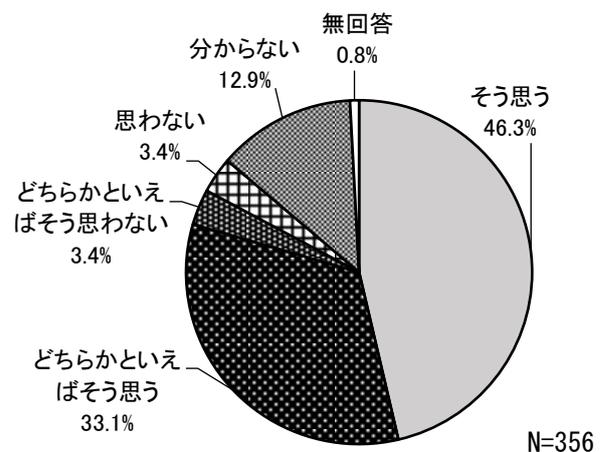
「中学生」が78.9%、「高校生」が20.3%となっています。

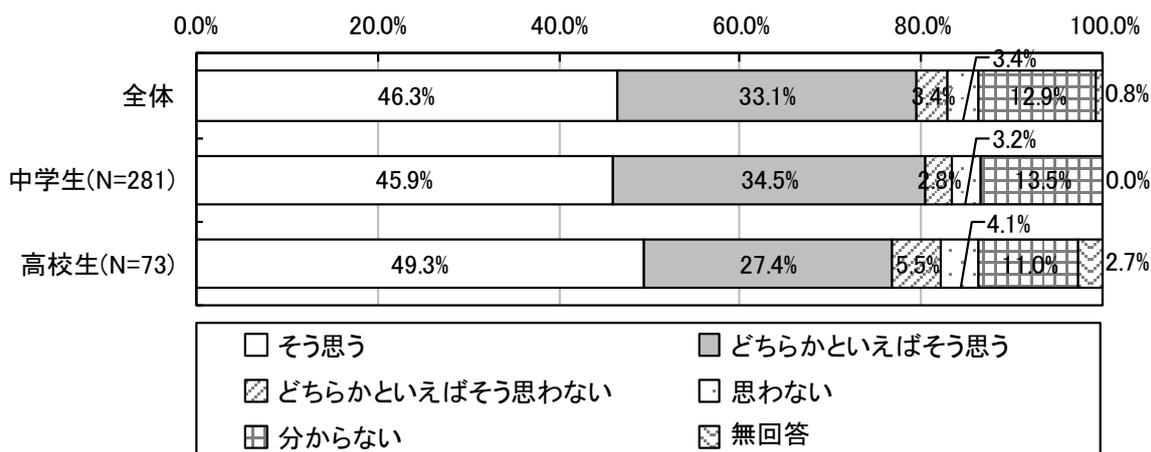


(2) 村への愛着度

●中高生：愛着度

『あなたは「恩納村」が好きだ（自慢できる）と思いますか。あてはまるものを選んでください。』という問いに対し、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の意見が79.4%となっています。



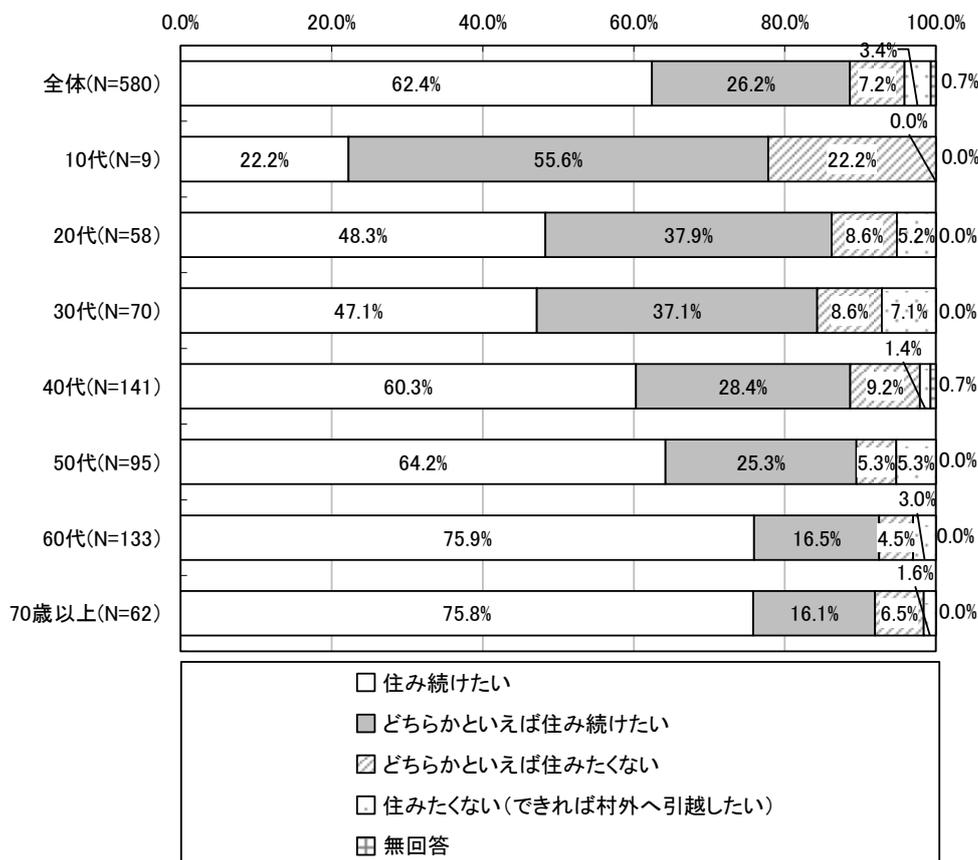
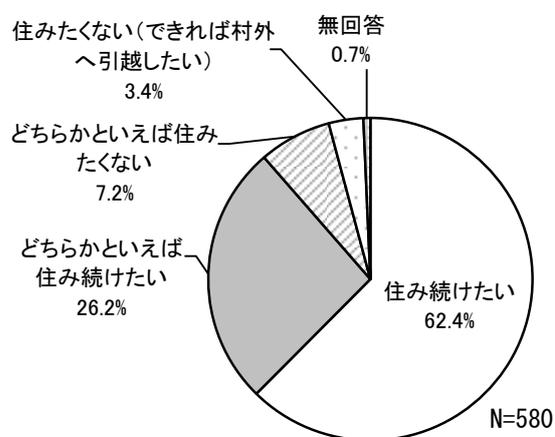


(3) 今後の定住意向

●一般：定住意向

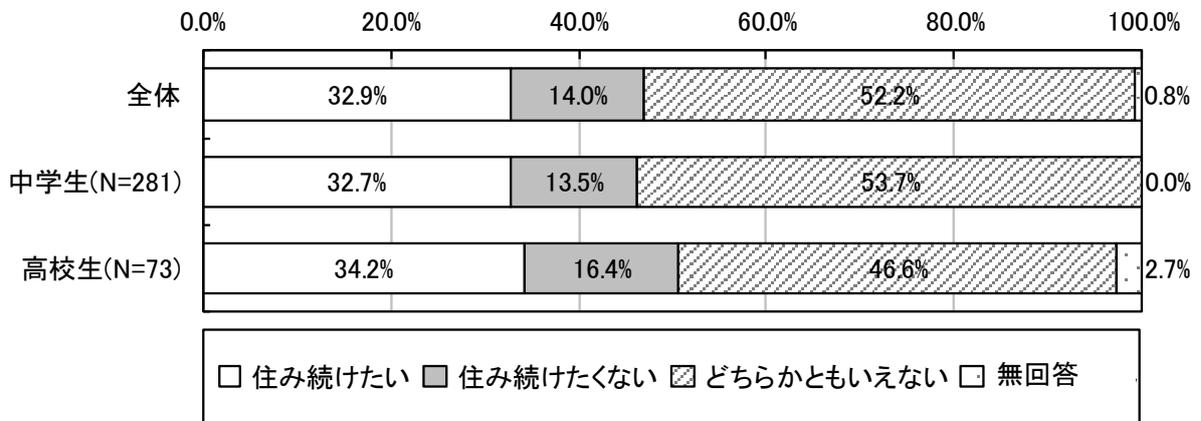
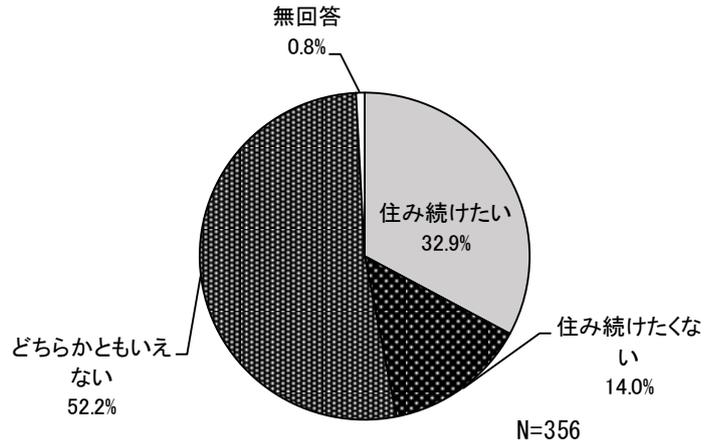
「あなたは、これからも恩納村に住み続けたいと思いますか。」という問いに対し、「住み続けたい」、「どちらかといえば住み続けたい」を合わせると、全体でおよそ9割が「住み続けたい」と回答しています。

「どちらかといえば住みたくない」、「住みたくない（できれば村外へ引っ越したい）」が多い年代としては10代の22.2%が「住み続けたくない」と回答しています。しかし一方で、10代の77.8%は「住み続けたい」と回答しており、定住意向が高いことがうかがえます。



●中高校生：定住意向

「あなたは今後、恩納村に住み続けたいと思いますか。あなたのお考えに、最も近いものを選んでください。」という問いに対し、「どちらともいえない」が52.2%で最も多く、次いで「住み続けたい」が32.9%、「住み続けたくない」が14.0%となっています。



(4) 今後のむらづくりの希望

●一般：今後のむらづくりの希望

「あなたは、今後のむらづくりにおいて、恩納村をどのような特色のあるむらづくりにすべきだと考えますか。（優先度の高い順に上位1、2、3を記入）」という問いに対し、むらづくりの特色として上位5位にあげられた分野は、以下のとおりです。

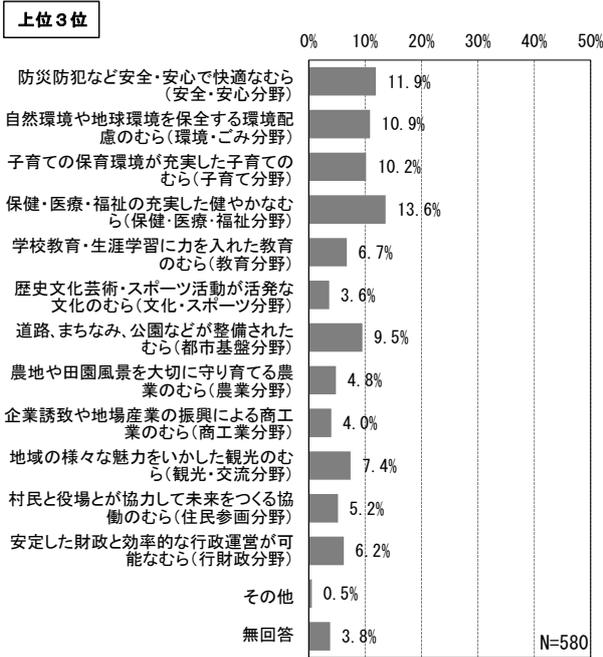
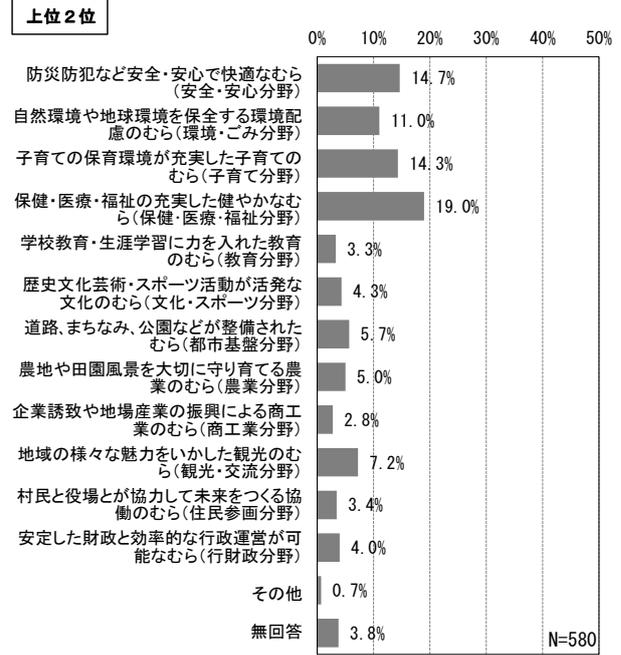
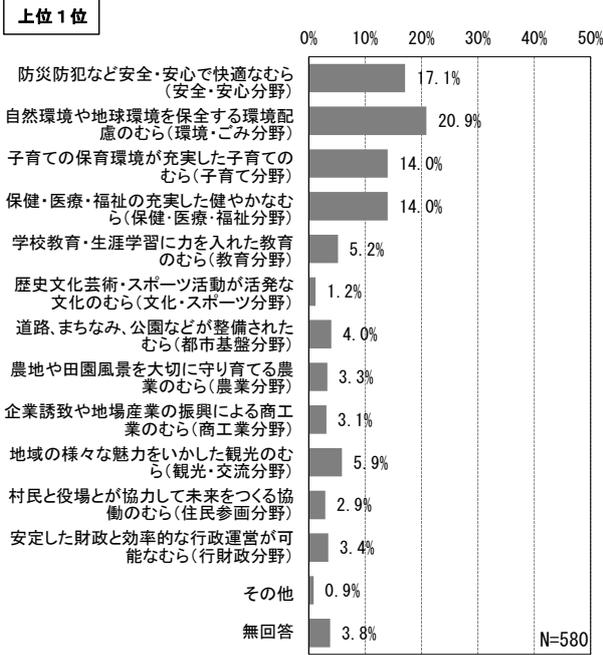
1位 「保健・医療・福祉の充実した健やかな村
（保健・医療・福祉分野）」 44.6%

4位 「子育ての保育環境が充実した子育ての村
（子育て分野）」 38.5%

2位 「防災防犯など安全・安心で快適な村
（安全・安心分野）」 43.7%

5位 「地域の様々な魅力をいかした観光の村
（観光・交流分野）」 20.5%

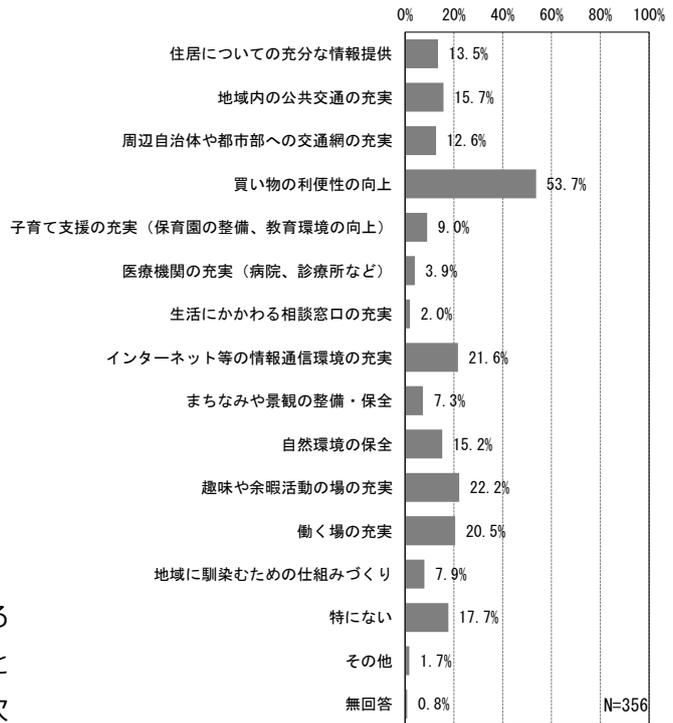
3位 「自然環境や地球環境を保全する環境配慮の村（環境・ごみ分野）」 42.8%



アンケートのご協力ありがとうございました。

● 中高生：今後のむらづくりの希望

「恩納村に住み続けるために必要なことは何ですか。」という問いに対し、「買い物の利便性の向上」が53.7%で最も多く、次いで「趣味や余暇活動の場の充実」が22.2%、「インターネット等の情報通信環境の充実」が21.6%となっています。

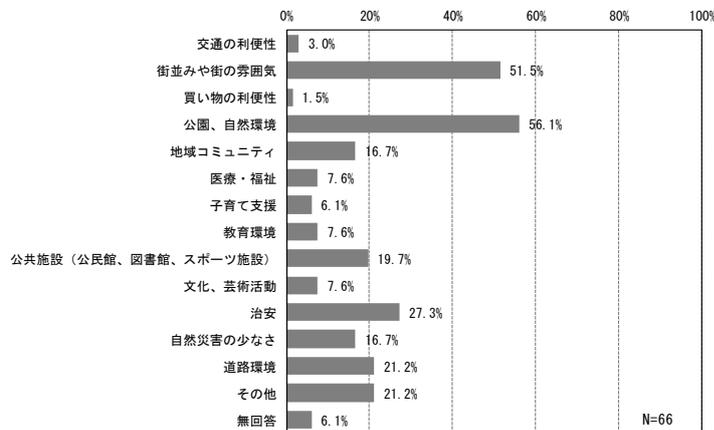


● 転出者：今後のむらづくりの希望

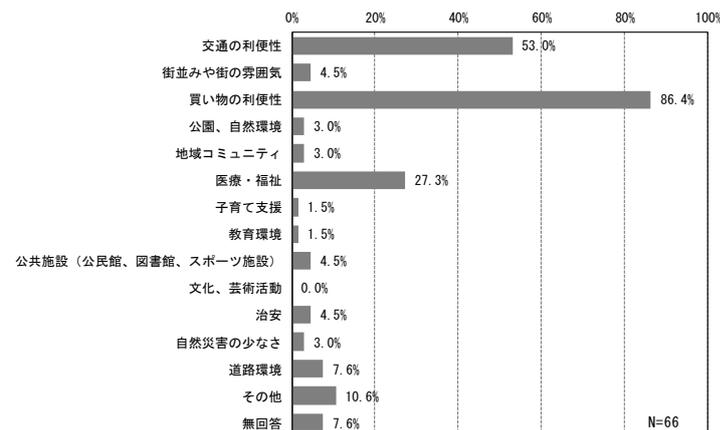
「恩納村に住んでいて良かったところ、悪かったところはどのようなことですか。」という問いに対し、良かったところは、「公園、自然環境」が56.1%で最も多く、次いで「街並みや街の雰囲気」が51.5%、「治安」が27.3%となっています。

悪かったところは「買い物の利便性」が86.4%で最も多く、次いで「交通の利便性」が53.0%、「医療・福祉」が27.3%となっています。

【良かったところ】



【悪かったところ】



3 基本的な視点と取り組みの方向性

本村では少子高齢化が進んでおり、今後もその傾向が続くことが予測されています。

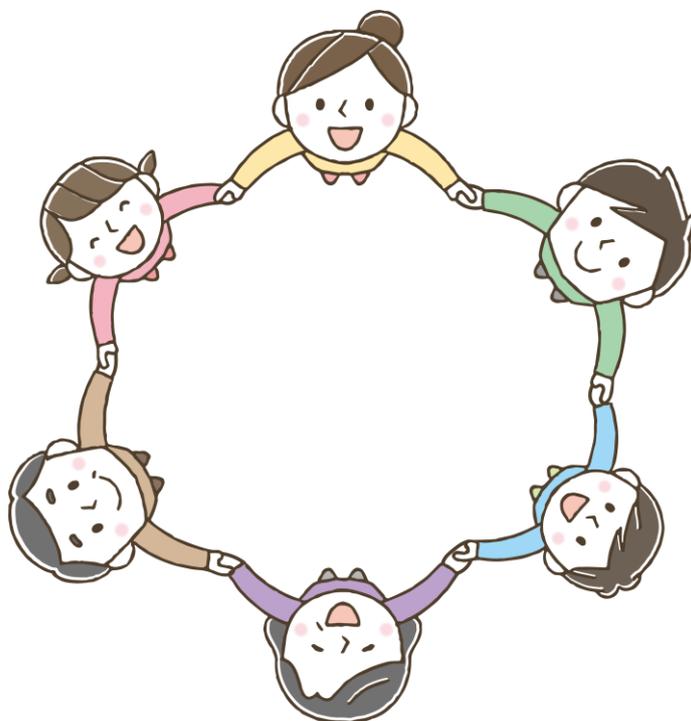
将来に到来することが予想されている人口減少や超高齢社会の一層の進展は、住民生活や経済・雇用、むらづくり、行政運営などの様々な分野において、多くの負の影響を及ぼすことが懸念されます。また、これらの変化に対して、このまま何も対策を講じなければ、本村は全国に先駆けて「厳しく困難な未来」を迎えるおそれがあります。

一方、人口の変化については景気や自然災害などと異なり、長期的に一定の傾向を予測することができ、何らかの対策を講じることが可能です。つまり、人口が増加していた時代の仕組み・政策はもとより、社会情勢に合わせた取り組みや、一人ひとりの意識・考え方、ライフスタイルなどを改め、人口増に転じることができれば、「厳しく困難な未来」を変

えることができます。

本村では、行政や地域住民をはじめ、地域の活動団体、事業者、教育機関などの多様な主体が連携し一丸となって、これまでの仕組み・考え方を変革するとともに、様々なアイデアや創意工夫を創出及び実践するなど、「人口減少の到来・超高齢社会の進展」への対策を積極的に講じていきます。

なお、「人口減少の到来・超高齢社会の進展」への対策については、人口減少に歯止めをかけるための取り組みとともに、避けることができない人口減少・超高齢社会にしっかりと対応するための取り組みを両輪として進め、新たな社会構造の構築と魅力の創出により、「厳しく困難な未来」を変え、持続可能でかつ魅力的で活力のある村の実現を目指します。



4 人口の将来展望

(1) 総人口

本村の人口は、リゾート施設周辺の飲食店や関連産業の立地に伴う経営、雇用機会の増加から、人口は僅かながら安定して増加しており、今後も増加傾向が続くものと予測されます。

社人研の将来人口推計による令和12年(2030)の人口は11,651人、令和27年(2045)の人口は11,926人と推計されています。

「恩納村まち・ひと・しごと創生総合戦略」(平成28年(2016)3月)では、人口ビジョン(人口の将来展望)における令和12年(2030)の将来人口は10,861人、令和27年(2045)の将来人口は10,493人に設定されています。

令和2年(2020)国勢調査では、本村の人口は10,869人と発表されました。

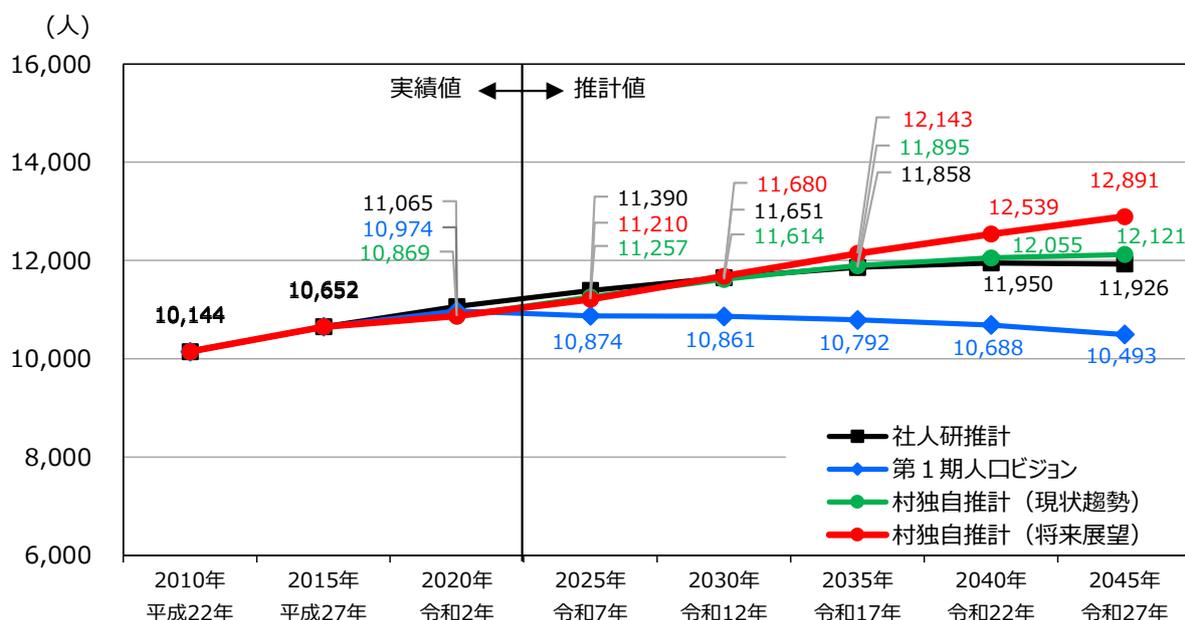
本村の独自推計(現状^{すうせい}趨勢)として、令和2

年(2020)国勢調査を基にコーホート要因法により算出した結果、令和12年(2030)の人口は11,257人、令和27年(2045)の人口は12,121人になる見通しです。

また、出生率の増加を実現し、令和12年(2030)までに合計特殊出生率が2.1に上昇すると想定した独自推計(将来展望)における令和12年(2030)の人口は11,680人、令和27年(2045)の人口は12,891人になる見通しです。

以上により、恩納村第6次総合計画では、目標年次の**令和14年(2032)**における本村の将来人口を**11,800人**と設定します。

また、人口ビジョンにおける目標年次の**令和27年(2045)**における本村の将来人口を**12,800人**と設定します。



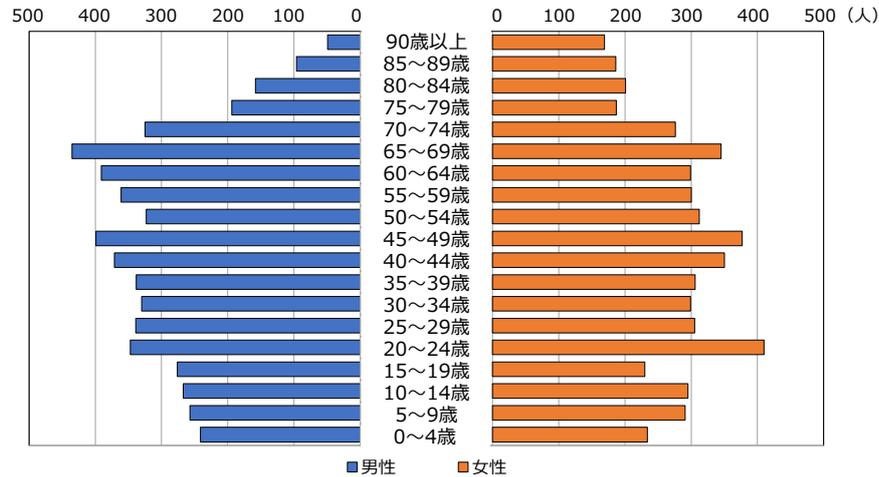
- 注) 1.平成22年(2010)、平成27年(2015)、令和2年(2020)は国勢調査による実績値
 2.社人研推計は、国立社会保障・人口問題研究所が平成27年(2015)の国勢調査を基に算出した「日本の地域別将来推計人口(平成30年(2018)推計)」で示している推計結果。令和2年(2020)の値は、推計当時の推計値
 3.第1期人口ビジョンは、「恩納村まち・ひと・しごと創生総合戦略」(平成28年3月)の恩納村の人口の将来展望で設定しているシミュレーション1の値。令和2年(2020)の値は、推計当時の推計値。
 4.村独自推計(現状趨勢)は、令和2年(2020)国勢調査人口を基に、合計特殊出生率が現状の1.77のまま推移すると仮定し推計した将来人口
 5.村独自推計(将来展望)は、令和12年(2030)までに合計特殊出生率が2.1に上昇すると想定、かつ独自純移動率を勘案した将来人口

本村の人口ピラミッドは、国勢調査による令和2年（2020）では老年人口が多く、年少人口が少ない「花瓶型」の形状をしています。

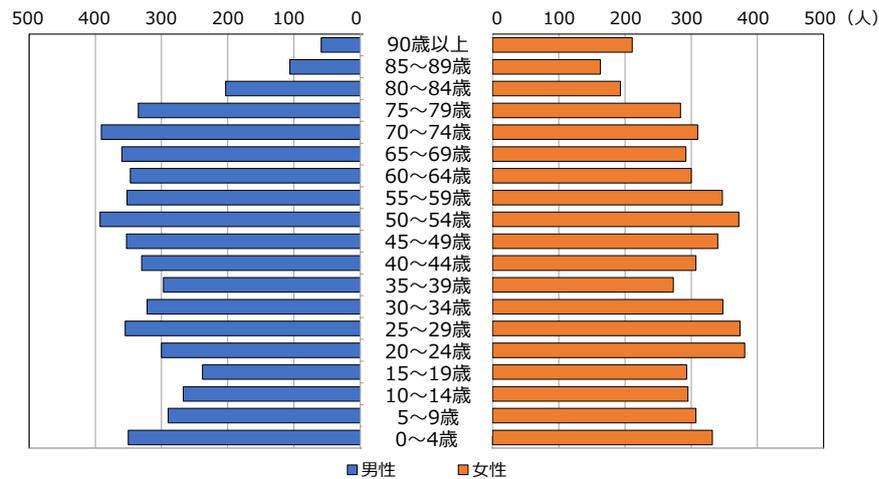
令和12年（2030）までに合計特殊出生率を2.1に上昇させるとした施策を講じた場合、村独

自推計（将来展望）による人口ピラミッドは、令和9年（2027）から令和27年（2045）へと徐々に人口ピラミッドの形が「台形」に近い形へと改善されていくと考えられます。

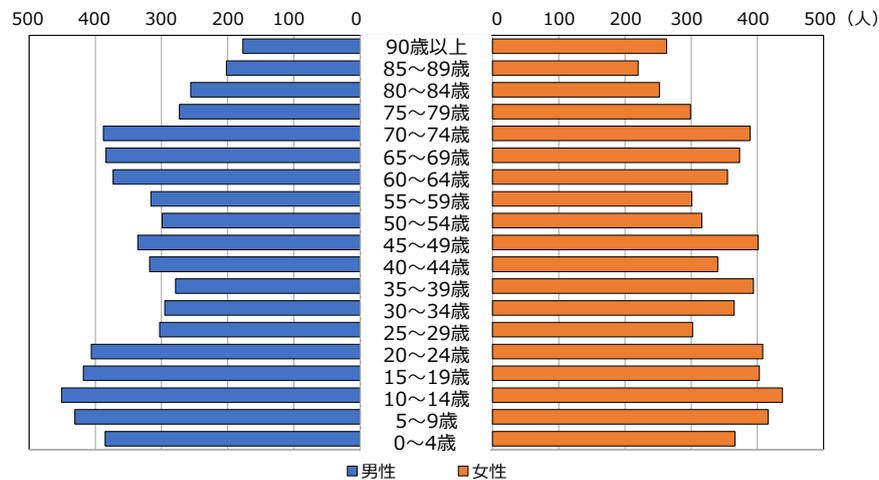
令和2年（2020）



令和9年（2027）



令和27年（2045）

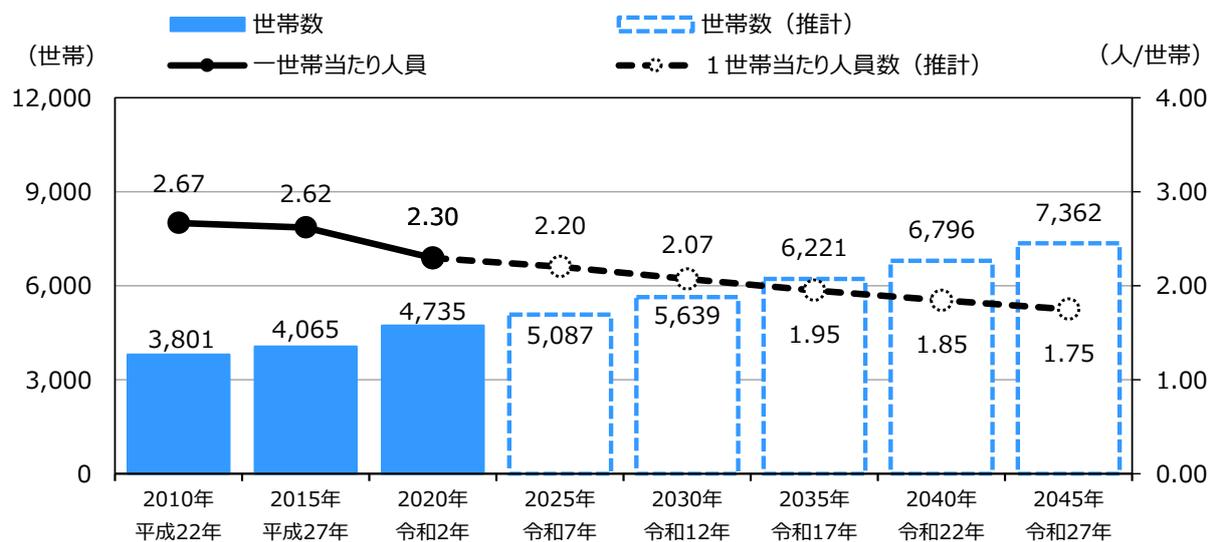


注) 1.令和2年（2020）は国勢調査による実績値
2.令和9年（2027）、令和27年（2045）は、村独自推計（将来展望）の値

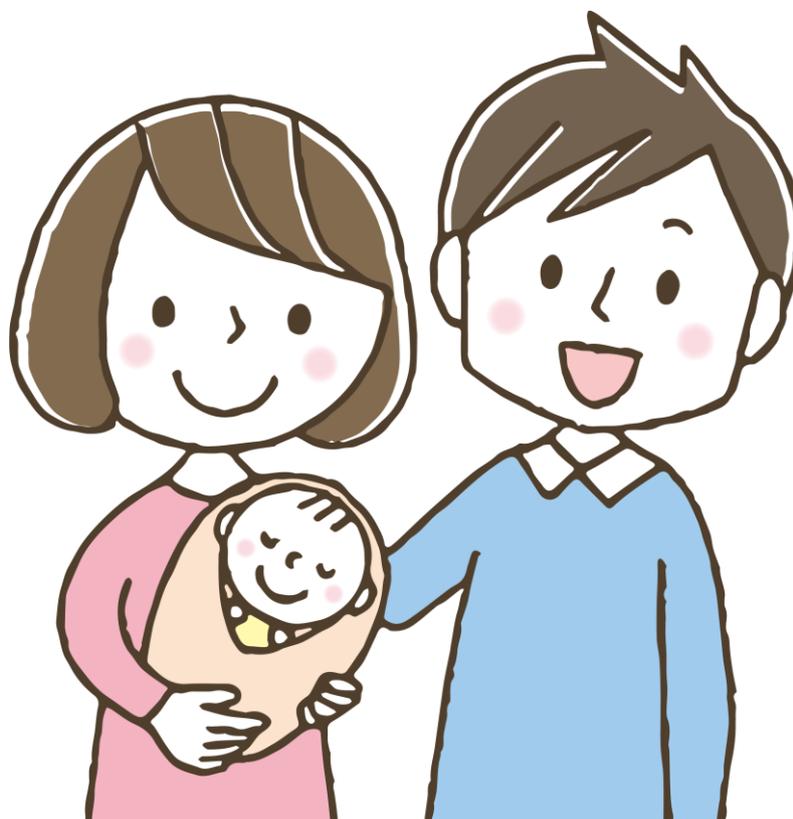
(2) 世帯数

令和12年(2030)における世帯数は5,639世帯、令和27年(2045)における世帯数は7,362世帯と推計されます。

また、令和12年(2030)における1世帯当たりの人員は2.07人/世帯、令和27年(2045)における1世帯当たりの人員は1.75人/世帯に減少する見通しです。



注) 1.平成22年(2010)、平成27年(2015)、令和2年(2020)は国勢調査による現況値
 2.令和7年以降は平成12年～令和2年の1世帯当たり人員数現況値を基にトレンド推計によって算出した





第3章 基本目標

将来像として掲げた村の姿を具体化するため、以下の7つの目標を基本目標として設定します。

基本目標 1

子どもたちが夢や希望をもち、のびのび輝く村

【子育て・教育】

人づくりはむらづくりの基本です。子どもは社会の希望であり、未来をつくる存在です。子どもの健やかな育ちと子育てを支えることは一人ひとりの子どもや保護者の幸せにつながることはもとより、将来の担い手育成の基礎をなす重要な未来への投資であり、全ての子育て家庭の支援を進めます。また、保育所・幼稚園・小学校の少人数を活かしたきめ細かな教育と中学校教育とあわせ、学校・家庭・地域が協力した教育環境づくりにより、「心・知・体」を身につけた次世代を担う子どもたちを育成します。

基本目標 2

生涯にわたる豊かな学びと歴史・文化が薫る村

【生涯学習・スポーツ・歴史・文化】

「いつでも、どこでも、だれでも」学べる環境づくりを進めるとともに、「赤間総合運動公園」を活用したスポーツ活動を推進し、各種団体の育成と生涯学習及びスポーツの充実を図ります。

また、本村には国指定史跡の「山田城跡^{やまだぐすくあと}」等、固有の歴史・文化があります。「山田城跡^{やまだぐすくあと}」の復元整備をはじめとして、しまくとぅば、ハーリー、豊年祭等の歴史・文化資源の継承と活用により、恩納村を誇りとする人づくりを進めます。

基本目標 3

誰もがいきいきと暮らせる健康福祉の村

【保健・医療・福祉】

人々の健康は地域活力の源です。子どもから大人まで村民の健康増進を図るとともに、疾病の予防・早期発見に取り組み、医療機関と連携して地域保健医療の向上を図ります。

また、地域には高齢者や障がい者をはじめ生活に困窮している人や心身にハンディキャップを持つ人々が生活しています。誰もが生き生きと地域で自立した生活を送ることができる環境づくりを進めます。

基本目標4**恩納ブランドをいかした活力と魅力ある産業の村**

【産業・経済】

農業では、小菊やパッションフルーツ、切葉（ドラセナ）等の販路拡大による農業振興を図るとともに、アボカド、パインアップル、シンカレタス等の新たな品目の産地化を進め、農業の活性化を図ります。

漁業では、海ぶどう、モズクをはじめとする養殖漁業や、資源管理型漁業・観光漁業の継続・発展を目指すとともに、サンゴ再生活動によるサンゴ礁海域の保全に取り組みます。

花卉や熱帯果樹類、水産物の生産は本村の資源、環境を活かした産業であり、恩納ブランドとして高品質生産と物産パッケージ、産直等、農林水産と商工・観光を立体的に掛け合わせた第6次産業化を進めます。

国内有数の観光リゾート地として、リゾートホテルと連携した商工業の振興を図るとともに、村民の雇用を守るため、労働環境改善支援、キャリア教育の支援、経営基盤強靱化支援等に取り組みます。

基本目標5**美しい自然と調和した潤いのある村**

【環境】

長大な海岸線を有する本村の美しい自然環境を保全するとともに、生態系に配慮した環境整備や良好な景観の保全と創出を図り、自然と共生するむらづくりを進めます。

さらに、ごみ分別の徹底や再資源化の促進、墓地整備の促進等、生活周りの環境整備を進め、資源循環型で潤いのある生活環境づくりを進めます。

基本目標6**誰もが安全・安心で快適に暮らせる村**

【都市基盤・防災】

「恩納村環境保全条例」、「恩納村景観むらづくり条例」を基本に、「土地利用の誘導」並びに「良好な景観形成」に努め、良好で適正な土地利用を目指します。

村民の生命、財産を災害等から守るため、救急救命活動の高度化とあわせた消防体制の確立を目指します。

さらに、地域防災体制及び防犯体制の強化、交通事故の発生抑制に取り組み、安全・安心なむらづくりを進めます。

基本目標7**村民と築く持続可能な村**

【行財政】

芸能文化の継承、子育てや老人福祉等の相互扶助、自主防災活動等の行政だけでは解決できないような地域課題の解決には、村民による自治活動が欠かせません。それぞれの地域実情に応じた住民自治の充実を目指します。

人口1万人規模の村として、柔軟な組織体制の構築、民間活力を利用した公営施設運営、情報化の推進等により、持続可能な行財政運営を目指します。



第4章 施策の体系

基本理念	<p>(1) 自然を愛し、人と自然が共生する美しい村</p> <p>(2) 人間を尊び、互いを支え合う心豊かで共生の村</p> <p>(3) 子どもたちの伸びゆく力を育て、活力ある村</p> <p>(4) 心も体も健康で、安心して暮らせる村</p> <p>(5) 魅力あふれる活力のある元気な村</p>
-------------	---

将来像	<small>めくみ</small> 恩の青 豊かな緑 輝く人々 未来へつなごう恩納村
------------	---

基本目標	基本施策	取組施策
1【子育て・教育】 子どもたちが夢や希望をもち、のびのび輝く村	1-1 子育て支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てニーズ対応の保育サービスの充実 ・ひとり親世帯に対する支援 ・児童虐待の防止 ・子どもの安全・安心確保と居場所づくり ・子どもの貧困防止 ・ヤングケアラーに対する支援
	1-2 教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育の充実 ・学校教育の充実 ・教育環境の充実
2【生涯学習・スポーツ・歴史・文化】 生涯にわたる豊かな学びと歴史・文化が薫る村	2-1 生涯学習・スポーツの振興	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習の充実 ・生涯スポーツの振興 ・各種社会教育団体等への活動支援 ・青少年の健全育成 ・生涯学習拠点施設の充実
	2-2 文化の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館活動の充実 ・文化情報センター活動の充実 ・山田城跡等文化財の保存・整備・活用 ・文化活動、生涯学習等と連携した地域文化の振興 ・村史編さんの推進
3【保健・医療・福祉】 誰もがいきいきと暮らせる健康福祉の村	3-1 健康づくりの促進	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたる健康づくりの推進 ・地域における健康づくり環境の充実 ・健康づくり活動の担い手育成
	3-2 医療・の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・健康を支える医療の推進 ・国民健康保険制度の実施 ・新興感染症対策の充実
	3-3 地域福祉の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時要援護者の支援体制づくり ・生活を支える福祉サービスの充実
	3-4 高齢者福祉の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアシステムの確立 ・介護予防の推進 ・介護保険サービスの推進 ・生きがいづくりの支援 ・安心な暮らしの推進 ・国民年金制度の周知
	3-5 障がい者福祉の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・相談対応の充実 ・自立生活・社会参加の推進 ・障がい者の権利に関する啓発
4【産業・経済】 恩納ブランドをいかした活力と魅力ある産業の村	4-1 農業の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・担い手の確保と育成 ・生産振興と販売促進 ・生産基盤の整備 ・共生の農村振興
	4-2 水産業の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・里海と漁場環境の保全・再生 ・漁業生産振興と販売促進 ・漁業関連施設の整備と適切な管理

基本目標	基本施策	取組施策
4【産業・経済】 恩納ブランドをいかした活力と魅力ある産業の村	4-3 商工業の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・中小企業・小規模企業等活動の活性化支援 ・恩納ブランドの促進 ・観光関連業との連携強化
	4-4 観光業の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源の保全と活用の観光振興 ・安全・安心で快適な観光地形成 ・観光プロモーションの強化と人材育成
	4-5 雇用の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用機会の推進 ・多様な働き場の創出 ・就業意識の高揚とキャリア教育の支援
5【環境】 美しい自然と調和した潤いのある村	5-1 自然環境の保全・創出	<ul style="list-style-type: none"> ・海域生態系の保全と創出 ・陸域環境の保全と創出 ・景観の保全と創出
	5-2 生活環境の保全・創出	<ul style="list-style-type: none"> ・循環型社会の構築 ・公害対策の充実 ・環境衛生の向上
	5-3 地球環境の保全	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境に配慮した機器とエネルギーの導入促進 ・地球温暖化対策及び気候変動適応策の推進
6【都市基盤・防災】 誰もが安全・安心で快適に暮らせる村	6-1 土地利用及び景観形成の調和	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的な土地利用の推進 ・計画的な景観形成の推進 ・軍用跡地利用の促進
	6-2 住環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅地の確保 ・沖縄科学技術大学院大学周辺整備事業の促進 ・村営住宅等の整備と適切な維持管理の推進
	6-3 道路、公園等の生活環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・道路ネットワークの構築 ・地域公共交通の活性化 ・歩行者空間等の整備 ・道路施設等の適正な維持管理 ・緑地・公園の整備
	6-4 上下水道の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・上水道の整備 ・下水道の整備
	6-5 安全・安心対策の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・消防・救急の充実 ・地域防災力の向上 ・防犯・交通安全対策の推進 ・消費者対策の充実
7【行財政】 村民と築く持続可能な村	7-1 住民自治の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的な地域づくりの推進 ・地域活動の充実 ・公民館の充実
	7-2 行財政運営の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・行財政改革の充実 ・財政基盤の強化 ・公共施設の有効活用 ・情報化の推進
	7-3 広域行政の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・北部広域市町村事業の充実 ・広域ごみ処理の充実 ・広域介護保険の充実 ・消防・救急の広域化推進 ・医療・福祉の広域体制づくり ・友好都市との連携及び協定の推進